Tたのしく　Aあかるく　Oおもしろく　∽　Tたるをしる　Aありがとう　Oおかげさま

# ＴＡＯ通信　2004年　深秋号

編集・発行　波多野毅　2004年11月1日発行　　通刊　第29号

TEL&FAX 0967(46)3913　URL http://www.weavetango.ne.jp/~tao　E-mail wildoats@bronze.ocn.ne.jp

TAOのﾈｯﾄｼｮｯﾋﾟﾝｸ⇒ http://www.earth-design.jp/~taocomm/　TAOのIP電話⇒050-3326-9695

波多野携帯　090-1978－0516　wildoats@ezweb.ne.jp　〒869-2501　熊本県阿蘇郡小国町宮原908－4

この紙は国内回収新聞古紙100%のリサイクルペーパーです。

| | | |
|---|---|---|
| Towards | 1　独立自由人 | Be independent and free. |
| enjoying | 2　知的野生人 | Be intellectual yet down-to-earth. |
| 21st century | 3　草根世界人 | Be international yet act locally. |

## 「懐かしい未来」を創っていく道

波多野　毅

10月10日のTAOオーガニック農場の「稲刈り祭」にはアラスカ出身の外国人の参加もあった。彼は、自己紹介タイムで「私はアメリカ人ではない！アラスカ人です！！」と話した。沖縄の人が、かつて（今でも？）本土を大和人（やまとんちゅう）と呼ぶ感覚に似ているのだろうか。

さて、今年、小国で「笑いの医学」について講演してくれた昇幹夫先生から、柳田耕一さん（環境カウンセラー）の近著を紹介された。大学時代にサークルの勉強会で柳田さんには一度講演をしてもらったことがある。さっそく買って読んでみると実に興味深い。本のタイトルはズバリ「アメリカ中毒症候群」！今のアメリカは、やることが乱暴で独善で行き当たりばったりの思考停止状態の中毒患者ではないか。日本を含め多くの国にその症候群が広がりつつあると警告する。このAmerican addiction syndromeは、実に社会の多岐に及ぶ。暴力中毒･買物中毒･クルマ中毒･ファーストフード中毒･クスリ･薬品中毒･保険中毒･訴訟中毒･金融中毒･ハイテク中毒･ギャンブル中毒･働き中毒･情報中毒･成長神話中毒･二重基準中毒･･･。

アメリカ発のグローバリゼーションの大波は、日本全国の片田舎にも押し寄せている。コンビニ･量販店･巨大スーパー･百円ショップが出来、大勢の消費者が先々の悲惨なムラの光景を想像もせず行列作って喜んでいる。将来の話ではなく、もう既に地方町村の中心市街地の多くは、店のシャッターが降り空洞化が進み、自殺者･夜逃げ者等が急増しているというのに！

地球規模で押し寄せる大波はヒマラヤの辺境にさえ及ぶ。私の親友の鎌田陽司君が中心となって翻訳した「ラダック･懐かしい未来」（山と渓谷社）という本を読んでもらいたい。TAOも協賛したビデオ＆DVDも最近刊行された。（TAOでも販売しています！是非お買い上げください。超オススメです。）

微力な我々には、どうしようもなく感じる地球的規模で動く環境破壊･金融システムそして戦争･･･それらについて真実の情報を入手し、洞察を深め、各種の運動を起こしていくことも大切だろう。しかし、「懐かしい未来」へ向けて、足元から小さな一歩を踏み出し、「小さな現実」を創り出していく生き方は楽しく、心身ともにﾜｸﾜｸして、実に爽快だ！パーマカルチャリストは、反戦アクティビスト達から「山野でﾉﾝﾋﾞﾘ農業やるのではなく、もっと平和運動に参加せよ！」と批判されるのに対し、こう答えるという。「NOを唱え続けるのも運動だが、YESというライフスタイルを一足先に実践することはもっと重要なのだ！」と。

5月にTAOに遊びに来てくれた明治学院大学教授の辻信一さんは新著の中でこう書いた。
「スローに生きるとは、快楽を拒絶し、禁欲的･抑圧的に暮らすことじゃない。愉しく、美しく、安らかで、おいしさに満ちたもの。人や自然とつながりを基盤に、自分自身の生を生きなおすことなのだ。」

TAO社会人講座のお知らせ　元国連顧問　北谷勝秀氏　12月13日7時半～　TAO塾　参加費　500

**11月の波多野毅講演＆コーディネーター日程**

11月2日（火曜）宮崎県延岡市「市民大学講座」延岡市教育委員会
11月20日（土曜）鹿児島県志布志町「子どもをほめよう全国大会」志布志町教育委員会
11月28日（日曜）佐賀市「志高ければ気自から盛んなり」ホロトロピッククラブ

表　アメリカ中毒から脱出する治療目安

| 区分 | アメリカ中毒生活様式<br>おれが一番･独善 | 解毒（オルタナティブ）生活様式<br>相互補完･協調 |
|---|---|---|
| 考え方（主義･原理･概念） | | |
| 国家レベル | 一国主義　独善主義<br>暴力原理　核兵器<br>グローバルエコノミー<br>　地球規模での利益拡大<br>軍事安全保障<br>　軍事優先政策<br>大きな政府　中央集権<br>　大型公共工事依存<br>外発的発展　物質<br>大競争･弱肉強食の経済 | 国際協調　国連中心　NGO 活用<br>平和原理　憲法9条<br>ローカルエコノミー<br>　地域経済を中心に<br>人間の安全保障<br>　環境･福祉･食料優先<br>小さな政府　分権<br>　規制緩和･民間努力･NPO 活用<br>内発的発展　精神性<br>協議と友愛の経済 |
| 行い（行動スタイル） | | |
| 個人レベル | 強さ･若さ･豊かさ<br>金儲け<br>銃社会　暴力自衛<br>マイカー中心生活<br>　4輪中心<br>肉や砂糖の多量消費<br>メニュー主義<br>西洋近代医療優先<br>ローン（借金）生活<br>国家単位で考える態度 | 自然な生活･安心<br>生きもうけ<br>地域連帯　社会自衛<br>公共交通中心生活<br>　2輪と足へ<br>地場･和食中心へ<br>材料主義　地域･季節<br>相補代替統合医療<br>無ローン　堅実主義<br>個人単位で考える態度 |
| 社会レベル | 一宗教支配<br>更なる経済成長を<br>石油付漬けの浪費生活<br>巨大保険、巨大金融<br>科学技術偏重社会<br>格差拡大　二極分化<br>暴力容認　銃･家庭内暴力<br>二重基準<br>　ダブルスタンダード | 多文化多宗教共存<br>持続可能な発展にシフト<br>再生可能なエネルギーにシフト<br>適正規模での相互扶助<br>適正技術･自然との調和<br>格差縮減　公平･公正<br>弱者にやさしい社会づくり<br>公正な扱い<br>　自国で悪いことは他国でもしない |
| 具体的（商品･番組･事業） | | |
| | 多国籍巨大企業貿易<br>農薬と化学肥料農業<br>マスメディア<br>　ハリウッド、3 大ネットワーク<br>Windows 的 OS 独占<br>大量消費･大量廃棄<br>原子力発電 | フェアトレード･民衆貿易<br>有機農業　ケミカルフリー<br>多様なソースにシフト<br>　地方メディアや個人メディア<br>Linux 型参加と普及<br>減量･再利用　フル活用<br>自然エネルギー　コジェネなど<br>スローフード　伝統食など |

非暴力・非対立で

スロー快楽主義で

# TAO オーガニック農場　「稲刈りワークショップ」

10月10日稲刈り祭をしました。参加者は30名。地元の農家ほか、パーマカルチャーをオーストラリアで勉強してきた人、大学生、カイロプラクティックの治療師、樹医をしている人、遠くは関西･東京･アメリカからも･････多士済々。

稲刈り講師は、地元で農業を営む宮崎良久さん。この時期、いのししの害が多いのだが、猟師の顔を持つ宮崎さん。獲った「しし肉」の差し入れもしてくれた。

マルコポーロがジパングを黄金の国と呼んだのは金色に輝く稲穂の事だという奇説があるまさに黄金に勝る眩しさだ！

## 雨の稲刈りを終えて

TAO 塾スタッフ　藤江雄俊

5 月末の田植えから5ヶ月を経て、今回の稲刈りへと至ることができた。八十八の作業をかけて作られると言う「米」。今回、二度の台風にも負けずに実ってくれた TAO 米は、八十八（否それ以上！）の人々の手も借りつつ、育ってくれた。（他にも八十八もの自然界の要素･作用もあって実ってくれた。とも表現できるのかもしれない。）いずれにせよ、沢山のコトがつながりあって、できあがった米の素晴らしさに感動を覚えずにはいられない。僕はこの米についての物語をいくつも語ることができる。物語（想い）のある米。あなたの食しているその米に物語（想い）はありますか？かけ干しした米は、最後の仕上げに秋の陽の洗礼を受けて完成される。この米はウマイ！断言できる！

《TAO 米》注文する人は急げ！電話･FAX にて受け付けます。献金を利用しての買いだめなどはお控え下さい。水面下での交渉には適宜対応を考慮させていただきます。(^^) v (^^) v (^^) v

## 「泥だらけ」の稲刈り

管理栄養士　新木寛子さん

今回の稲刈りは、何より「泥だらけ」の稲刈りでした。田植えの時のようなぬかるみの中で足をとられながらの作業は、かなり珍しく面白い経験だったと思います。長く農業をなさっている方にとっても 30 年に一度あるかないかの経験だったそうです。昼食は新米や郷土料理などに舌鼓を打ちましたが、農作業をした後の屋外での食事はやはり格別においしいものでした。今回は、稲刈を刈ることから始まり、次に刈った稲を藁で束ね、最後に陰干し用の土台を木で組み稲をかける作業までを行いましたが、稲刈り一つにしてもここまで手間のかかるものだとは思いませんでした。実際に田に入ったことによって、日々食べるお米に対しありがたいという気持ちを実感できるようになり、とてもよい経験ができたと思っています。

楽しい時間の共有　　熊本大学工学部大学院　植木瑠那江さん

　地元の皆さんが言っていた言葉が印象的でした。「雨の中の稲刈りなんて始めてばい！！2度とないかもしれんなぁ（笑）。」私にとっては稲刈り自体が初めてで、田んぼの土の中にも入ったことはありませんでした。雨の田んぼは、まるで海の干潟のような感触でした。私は、雨の降る日や雨の後には稲刈りができないことも知らなかったし、稲を刈って数束ずつ束ねること、束ねた稲を竹の棒に干すこと…などはじめて知ることがたくさんありました。集まった地元の方も、外部から来ている方もそれぞれに個性的でした。作業が始まってからはそれぞれのキャラクターや経験を生かし、機械を扱ったり、手際の良い手刈りをご披露してくれたり、初心者である私たちに作業のイロハを教えてくださったりと、田んぼの中でみなさんとても生き生きと作業をすすめてくださいました。稲の束を刈って、紐でまとめるところまでしてくれる機械にはおどろいて、見ていてとてもおもしろかったです。お待ち兼ねのお昼ごはんの時も、TAO 農場とれたての新米やだご汁、珍しいしし肉など心のこもったお料理を頂いて、おしゃべりをして楽しい時間をすごしました。農家の方の毎日の農作業は大変だと思うけれども、今回のように皆でわいわいやる作業はとっても楽しくて、そういう時間を TAO に集まる方々と共有できたことを嬉しく思っています。

## ◎ TAO 塾卒業生からの手紙コーナー

### ★土井丈彰君　　TAO 塾⇒上智大学⇒三菱商事⇒南米チリで語学研修

上智大学比較文化学部（国際政治専攻）卒業後、三菱商事に入社し、今、社内の語学研修制度で昨年 10 月よりチリ/サンチアゴにあるカトリカ大学にてスペイン語を勉強しています。こちらにもだいぶ慣れ、言葉だけでなく、日々のコミュニケーションならびにチリ国内外への旅を通じ、多くのことを吸収している毎日を送っております。遡ること早 10 数年になりますが、波多野先生を通して、出会った世界への道がこうして日々着々と実を結んでいることに対し、出会いの奥深しさとまた感謝の気持ちでいっぱいです。波多野先生の下で学んだあの 3 年間がなければ、今の僕はなかったと思います。
研修後も暫くは今の職場の中で中南米を中心とした、世界と日本の架け橋とした仕事に従事していくこととなると思いますが、いつかぜひ阿蘇の土地を訪れたいと思います。良い意味で田舎者の持つ、純粋性とその活力を強く信じております。また波多野先生も、もし機会あってチリに遊びにいらして頂けるようなことあれば、歓待致します。お体を大事にしながら、今後とも松下村塾のように、平成の志士を一人でも多く育てていかれる事を願ってやみません。

### ★斎藤あゆみさん　TAO 塾⇒赤十字広島看護大学⇒インドでボランティア研修

インドは、とても広く朝早くから夜遅くまで人々が働いていて活気にあふれていました。バス、タクシー、バイク、オートキシャー、人力車、自転車が一つの道路を自由に行き交う風景が面白かったです。食事は、毎回カレー味のもので本当に辛くて胃が悪くなりそうでした。でも美味しかったです。貧富の差が激しく、家の周りには道端で寝る人が大勢いてそれを見たときは驚きました。私は、マザーテレサの障害を持つ子供の家で働きました。その中で私が感じた一番大きな事は、どこにいても自分がどれだけ気持ちを込めて仕事をするかが大事だということです。私は、日本の病院実習で患者さんに気持ちを込めて接することができませんでした。日本の病院は人手が足りず忙しいから患者さんに十分なケアができないのだと思っていたけど、そうではないのでは？マザーハウスでも人手が足りていたわけではないけれど、本当に相手を見つめて与えられた時間内で気持ちを込めて働くと、自分の満足度も全然違っていました。そのことを感じて私は 10 月からの病院実習も本当に心をこめて働いていきたいなぁと思っています。私は、将来海外で発展途上国の人々のために働きたいという気持ちがありました。だけどマザーテレサがいうように、この国にも愛に飢えている人々がいるのだと思うと、日本でも働きたいというような思いが出てきました。今の日本を少しでももっと良い方向へ変えていく一人になれたらと！そういうことを考えたりして、今までの夢を今見つめなおしています。